

令和6年 6月定例会 市長提案説明

6月定例会の開催に当たりまして、所信の一端を申し上げますとともに、今議会に提案いたしました、議案の概要につきまして、ご説明申し上げます。

はじめに、今年1月1日に発生しました令和6年能登半島地震と4月17日に発生しました豊後水道を震源とする地震により、多くのかたが被害を受けられましたことを心よりお悔やみ申し上げます。能登半島地震では、245人のかたがお亡くなりになり、3人のかたの行方が分かっておりません。住家被害は12万棟を超え、最大で13万戸以上にも及んだ断水は減少したものの、今なお約2千戸で断水は続いており、約3千人のかたが避難所生活を強いられております。豊後水道を震源とする地震では、幸いにして、お亡くなりになられたかたはおられず、12人のかたが負傷され、開設されていた避難所は全て閉鎖されたとのことでございます。

5月24日には、岡崎市が独自に募集をしている令和6年能登半島地震義援金を被災地へ送金いたしました。

被災されたかたの支援のため、心温まるご厚志を賜り、心からお礼申し上げます。

今回の送金は、本市として2回目の送金で、第1回送金と合わせて計2,850万円を送金しております。

被災された方々と地域の日も早い復旧復興、そして安全を心よりお祈りいたします。

本市におきましても、防災力の向上が急務であると考えていたところ、この度、創業100周年を迎える岡崎信用金庫様より、トイレカーのご寄附の準備を進めていただいているとお聞きしています。

岡崎信用金庫様におかれましては、能登半島地震の被災地でトイレが問題となっていることを知り、岡崎市の避難所生活においても衛生環境の確保が重要であり、それにはトイレカーが大きく貢献すると、お感じになったそうでございます。

機動力を備えたトイレカーのご寄附により、本市の防災力がより一層強化されることを心待ちにしております。

次に本格的な工事が始まった東岡崎駅の第二期整備でございますが、4月25日に、南口に商業施設「スイングモール」がオープンしました。

「ジャズの街岡崎」ならではの施設名称が付けられていますように、オープニングイベントでは「ジャズの街岡崎アンバサダー」をつとめいただいている今岡友美さんが開業記念ライブを披露されたほか、建物内にもジャズの要素をふんだんに取り入れた、装飾が施されています。

これから続く東岡崎駅施設全体の呼称も「スイングヒガオカ」と決定し、「東岡崎駅がこの街の躍動的なリズムをリードする」との想いを込めて整備が進められています。

まさに、スイングモールにリードしていただきながら、引き続き令和11年度の駅施設全体の完成に向けて鋭意取り組んでまいります。

つづいて、岡崎駅西口の自転車等駐車場用地活用事業ですが、民間のアイデアを活かし、駅前の利便性向上と新たな賑わいの創出を図る魅力ある空間を、賑わい・子育ての発信拠点となる「駅西小町」として、4月1日から営業を開始いたしました。

「駅西小町」は、公募により選定された民間事業者により、整備・運営されており、主に商業施設、駐輪場、駐車場で構成される複合施設で公衆用トイレと喫煙スペースを併設しています。

なお、商業施設では4月1日に先行してオープンした学童施設をはじめ、カフェや居酒屋などの飲食店等が9店舗、順次開店していく予定であり、7月26日には、民間事業者主催でグランドオープンイベントが開催されます。

岡崎市の玄関口の一つである岡崎駅において民間活力を導入し、さらなる賑わいが創出されることを大いに期待しております。

市北部の大門河川緑地では、本市初となるマレットゴルフコースが完成いたしました。東西計36ホール、コースの総延長1,312メートルに及び、自然の地形や樹木、法面などを活かしたコースとなっております。オープン初日となる4月11日には、多くの御来賓の皆様やマレットゴルフ協会の皆様とともに、披露会を盛大に開催しました。マレットゴルフは、老若男女を問わず楽しめるスポーツです。

特に高齢者の皆様にとっては、生涯にわたるスポーツの新たな選択肢の一つとして、末長く親しんでいただきたいと思います。

南公園では施設のリニューアルによる一時閉園のため、3月20日から3月31日までお別れイベントが行われ、マスメディアにも中継されるなど注目を浴びながら最終日には1万8千人を超える方々が来園されました。定員をはるかに超える応募がありました園内バーベキューでは、これまでにない特別感を味わっていただきました。小さなお子様から御年輩のかたまで、おひとりおひとりが思い出に浸りながら、南公園での特別な時間を過ごしていただけたのではないかと感じています。

市民の皆様が期待されている南公園整備は、令和9年に新しい姿に生まれ変わるための詳細設計を着々と進めております。

岡崎市民病院では、4月から患者サポートセンターを開設しました。これまで院内の別々の場所で行っていた、入院や退院に関する相談や支援、受診先の相談、医療福祉制度の利用に関する相談、診療科から案内された他診療科への受診予約や検査予約などを患者サポートセンターに集約し、相談窓口の一本化を図っております。今後も安心して通院や入院をしていただけるよう相談支援体制を充実させてまいります。

そのほか、岡崎市民病院を利用する皆様の利便性を向上させるため、正面玄関への進入路及び各駐車場の入口付近に、駐車場の混雑状況を把握できる案内表示盤を新たに設置しました。

また、慢性的な駐車場不足への対応として、新たに敷地北側に整備する駐車場は、年度内の完成を目指して、現在造成工事を進めております。

今後も安心して市民病院を利用していただけるように、施設整備を進めてまいります。

4月から高年者センター岡崎及び各地域福祉センターの計6か所で、OKフードドライブの常設窓口を設置し、家庭で余っている食料品をいつでもお持ち込みできるようになりました。

フードドライブはごみの削減だけでなく、十分に食事を摂ることができないかたへの支援や、これらの活動を通じた地域の『繋がり』の醸成など、本市のさまざまな課題に貢献できる事業です。今後も市全体でフードロス対策と必要なかたへの食料支援を推進してまいります。

次に、3月下旬からスタートしました桜まつりは、昨年、取り組んだ交通対策の検証を踏まえ、期間中の土日に限定して、公共駐車場の事前予約制とパークアンドライドを実施し、会場周辺道路に混雑はあったものの、大きな混乱はなく、多くの方々に桜を楽しんでいただくことができました。そして、桜まつり最終日の4月7日には、5年ぶりの春開催となった家康行列に、岡崎観光伝道師で本市出身の若手俳優・佐野勇斗さんを家康公役に迎え、同じく岡崎観光伝道師で本市出身のフリーアナウンサー・青木源太さんに総合MCを務めていただき、満開の桜の下、晴れやかに開催することができました。ご協力をいただきました地元の皆様、関係者の皆様に感謝を申し上げます。

桜まつりのあとには、4月19日からは夜間照明が好評な五万石藤まつりを、ゴールデンウィークが始まる4月27日、28日には渡辺明九段をはじめ9名の人気棋士の皆様をお招きして第31回将棋まつりを開催し、市民の皆様、市外の皆様に「春の岡崎」を楽しんでいただけたものと感じております。

昨年度は、大河ドラマ「どうする家康」に沸いた1年であり、コロナ禍で停滞していた地域経済の活性化の追い風となり、パブリシティ効果を含む本市の経済効果は143億円でありました。地域一丸となって取り組んでまいりました「大河ドラマ活用事業」の記録は、市ホームページで公開しておりますので、是非ご覧いただければと思います。

大河ドラマが終了し、ドラマ館が閉館した後も、全国から注目を集めた「家康公生誕の地 岡崎」に繰り返し訪れていただくための重要な拠点として、家康公や三河武士等の最新の研究成果を取り入れた「新生・家康館」を3月23日にリニューアルオープンいたしました。

このリニューアルにあわせ、大河ドラマ主演の松本潤さんから若き家康公姿の松本さんをイメージさせる肖像画をお借りして展示し、エントランスホールに松本さんが実際に撮影で着用した金茶美具足を展示するなど、大河ドラマのレガシーが感じられる展示を特別企画「家康凱旋」と銘打って実施しました。

また5月25日から第2弾として家康公が関わった合戦に焦点をあてた「家康合戦譚」が開催されております。

これらの成果もあり、リニューアルオープンから2か月経過した時点の来館者数は約2万6千人で、新型コロナウイルス感染前の来館者数と比較しましても好調に推移しております。

それでは、本議会に提案をいたしております、議案について説明させていただきます。

まず、条例議案でございますが、制定条例といたしましては、脱炭素社会を実現するため、気候変動対策の推進に関する基本理念や施策等について定める「脱炭素社会の実現に向けた気候変動対策推進条例」の1件でございます。

次に改正条例といたしましては、地方税法等の一部改正に伴い、関連する規定を整備する「岡崎市市税条例の一部改正」、消費者向け製品の製造工場等の立地促進を図るため、当該工場等に係る奨励措置について必要な事項を定める「工場等建設奨励条例の一部改正」、家康公に関する学びを通じた持続的な観光地域づくりに資するため、基金の設置目的や処分対象に関する規定を改める「家康公観光振興基金条例の一部改正」など5件で、さきの制定条例1件と合わせ、6件を提案させていただいております。

その他議案といたしましては、市道池金本宿線拡幅整備に伴う鉄道高架下防護工事の委託に係る「工事請負に関する契約」、高度救命処置用資機材、災害対応特殊救急自動車、指揮指令車、及び、電子黒板に関する「物品の取得」など、9件を提案させていただいております。

続きまして、補正予算議案であります。一般会計の補正は、55億5,435万7千円の増額、特別会計は、14万8千円の増額でございます。

一般会計の主なものとしては、

総務費は、国の「デフレ完全脱却のための総合経済対策」に基づき、国が実施する定額減税を補足する給付として、定額減税しきれないと見込まれるかたに、減税可能額と実減税額の差額を支給するための「定額減税補足給付金」の計上、

民生費は、同じく、国の総合経済対策に基づき、令和6年度新たに住民税非課税となる世帯及び住民税均等割のみ課税となる世帯に、1世帯当たり10万円を支給するとともに、加算として、当該世帯において扶養されている18歳以下の児童1人当たり5万円を支給するための、住民税非課税世帯等生活応援金の計上のほか、物価高騰等の影響を受ける幼児の保護者等に、幼児1人あたり5,000円の商品券を支給する幼児子育て世帯生活支援事業費の計上、

衛生費では、令和6年度からの定期接種化に伴う、国からの方針が示されたことによる新型コロナウイルスワクチン接種委託料の計上、

農林業費では、物価高騰等の影響を受けている米生産者支援及び消費下支え等を通じた生活者支援を実施するため、お米券を全市民へ配布する「おかざき農業応援プロジェクト推進事業費」の計上、

商工費では、岡崎信用金庫様から頂いた寄附金のうち、寄附の目的の一つである「家康公顕彰に資する事業の実施」に挙げられた「徳川家康公像と一体として制作された四神像の設置」を行うための備品購入費の計上のほか、令和7年度以降のジュニア家康公検定を実施するため、家康公観光振興基金へ寄附金1,500万円を積立てするための積立金の計上、

教育費では、こちらも岡崎信用金庫様からの寄附の目的の一つであります、学校教育環境の充実に資する事業として、長期欠席対策の充実に向けて、中学校を対象に電子黒板の整備等をするための備品購入費の計上などをお願いしております。

以上が今議会に提案いたしました議案の概要であります。

令和6年3月議会において、給食費の無償化について新たな限定的な無償枠の拡大を検討すると申し上げました。学校給食の目的は学校給食法にも定められているように成長期の子どもたちの健やかな体をつくることです。

また、食のセーフティネットの役割もあります。令和5年12月から令和6年1月に実施した「岡崎市の子ども・若者に関するアンケート」では、学校が楽しいと思う理由の48.5%に「給食がおいしいこと」との回答がありました。現在の給食費の金額で、オーガニック食材を使用するなど、質、量ともにより良い給食を提供し、子どもたちや保護者から「岡崎の給食は日本一だね」と言ってもらえることも重要ではないかと思うところです。

いずれにいたしましても、学校教育については、現在、本市独自の施策として、小学校への少人数学級の導入や全中学校へのF組、S組の設置、電子黒板の配置などを進めるとともに、小中学校屋内運動場へのエアコン設置に向けた調査を進めており、多額の費用が必要となります。

これらの取組みについて、学校給食を「こどもファースト、子どもど真ん中」の視点でのご意見を伺いたく、まずは児童生徒や保護者のかた、そして学校給食に携わる関係者の方々などによる市民会議のような、皆さんで協議する場を設け、給食のあり方を考えていきたいと思えます。つまりは、限られた財源で岡崎独自の教育施策と給食費のあり方を市民の皆様とともに考えていきたいということです。

本市は令和6年2月28日に、2030年までに生物多様性の損失に歯止めをかけ回復に転じる「ネイチャーポジティブ宣言」を行い、その実現に向け、今年度スマートフォンアプリ「Biome(バイオーム)」を活用した『市民参加型の自然環境調査』に取り組んでまいります。

この調査は、市民の皆さんが被写体となる動植物をスマートフォンのカメラで撮影することにより、AI判定で名称や特徴を知ることができるとともに、市内の動植物データが集まるため、今後の生物多様性保全施策にも活用してまいります。

また、普段あまり気にかけたことがない身近な動植物を、ゲーム感覚で知っていただき、自然環境に関心を持っていただくことは、生物多様性の啓発にも繋がるため、多くの市民の皆さんに参加いただけるよう周知を図ってまいります。

皆様の移動を支える公共交通について、いくつかお話をさせていただきます。

まず、令和2年度から、内容を拡充しながら実施してまいりました、名鉄バスが販売する高齢者パスの購入補助ですが、前年よりもさらに拡充し、1か月券は2千円、3か月券は5千円の補助とします。今回からの変更点としまして、まず市に申込みをして、補助券を受け取っていただきます。後日、郵送で届く補助券をお持ちいただいて、名鉄バス東岡崎出札などの窓口で高齢者パスを購入しますと、補助額を差し引いて購入していただけます。なお、高齢者パスをより多くのかたに知って、利用していただきたいため、今年度の補助券の申込は、おひとり様1回限りとさせていただきます。

次に地域内交通についてです。

六ツ美中部学区で令和2年から実証運行を行ってまいりました予約型乗合タクシー「チョイソコおかざき」ですが、本年4月から本格運行に移行しました。今後もよりよいものになるように改善を繰り返し、地域の皆様に守り育てていただける交通となること、そして他の地域のモデルとなることを願っております。

続いて、地域内交通の一つであるグリーンスローモビリティでございます。北斗台では、町内会で3年の調査検討を経て、「くるりん北斗」の出発式が5月7日に行われました。「くるりん北斗」は、6人乗りの時速20キロメートル未満の電気自動車を、地域の方々が自ら運行して乗り合う共助の取組であり、北斗台団地内の買物やバス停までの移動に役立つものと考えております。

6月2日までのひと月の実証運行を行い、運行実績やアンケートなどを分析し、本格運行に向けた課題を地域と共に整理して参ります。

こうした地域内交通の取組と、既存の路線バスやタクシーを含めた公共交通により、持続可能な地域交通ネットワークを構築してまいります。

また、下山学区では、地域住民による運転ボランティアが、病院受診や買い物、子どもたちの部活動の送迎などを行っております。無償貸与の福祉車両YAMABIKO号を活用し、地域の支え合いによる移動支援が実践されております。

地域の公共交通の確保・維持を図っていくうえで、運転士の高齢化や労働環境の規制強化によるバス運転士の不足、いわゆる“2024年問題”といった要因は、本市においても大きな課題となっております。

こうした状況を受け、4月3日に名鉄バス株式会社様と包括連携協定を締結し、市内の日本語学校とも連携しながら、外国人運転士の誕生に向けた支援体制を構築する「岡崎モデル」の実現に向けた取組をスタートしております。

外国人運転士の誕生に向け、まずは既に日本に在留している外国人を候補者として免許の取得や業務に必要な日本語教育を行うべく、今後複数名の募集を進め、まずは「外国人が日本においてバス運転士として従事するために必要な日本語教育の構築」を行ってまいります。

加えて、昨年度末には「特定技能1号」の対象分野にバス運転士を含む自動車運送業を追加する内容の閣議決定がなされましたので、現在の取組をベースとして、ゆくゆくは特定技能制度を活用した「海外で人を募集し、日本でバス運転士になっていただく」という形を目指してまいります。

令和6年5月29日開催の愛知県国家戦略特別区域会議において、本市が活用申請をしている「外国人乳幼児が多い認可外保育施設における指導監督基準の特例」を含んだ区域計画案が了承されました。この計画案は、内閣総理大臣の認定に向け、近く開催される国家戦略特別区域諮問会議に諮られる予定です。

本特例は、本市が愛知県内で初めて活用します。外国人乳幼児が多い認可外保育施設について、日本の保育士等の資格者の割合が3分の1未満であっても、一定の要件を満たす場合は、指導監督基準上の保育従事者の要件に適合したとみなすもので、保育の質の向上に繋がるものと考えております。

外国人が多い本市の地域特性に応じた特例を活用することで、外国人市民にとって、安心して働き、暮らせるまちとして、地域の国際競争力の強化と地域経済の活性化を図ってまいります。

今年度は、アメリカ・ニューポートビーチ市との姉妹都市提携40周年の節目の年となりますので、岡崎市公式使節団の派遣を始め、様々な交流の機会を設け、更なる関係性の深化を図ってまいります。

5月31日から6月2日では、14名のニューポートビーチ市公式使節団が来岡され、絵画を寄贈していただくとともに、滞在中は市民と新たな交流を育んでいただきました。絵画は、両市の良好な関係性から着想を得たもので、東庁舎1階ロビーに展示しておりますので、この機会にぜひご覧ください。

また、今月末にはニューポートビーチ市の青少年訪問団の受け入れを、そして7月には本市から市民訪問団と高校生からなる青少年訪問団の派遣を予定しております。派遣及び受け入れに参加する市民、高校生の皆様には、異なる文化を体験し、多文化共生社会の実現に向けた活動をけん引する力となっていただくことを期待するものでございます。

次に、バレーボールVリーグ男子1部に所属するジェイテクトスティングスが、今年の秋から、本市をホームタウンにすることを3月に発表いたしました。

ジェイテクトスティングスとは「スポーツ振興に関する協定」を締結し、これまで地域の活性化や市民の健康づくりの推進に貢献していただいております。

今年は、世界最高峰を目指す新たなバレーボールリーグ「SVリーグ」が始まります。今後は、市民の皆様へのPRのためのイベントの実施や事業者との連携を図るなど、地域に密着し、ますます岡崎市民の皆様には活力を、そして本市のスポーツ振興、地域の活性化につながることを期待しております。

本市では、ロケ地巡りによる誘客につなげるため、岡崎フィルムコミッションとして、映画等の撮影支援を行っており、今月、本市がロケ地の一つとなった映画2本が全国公開されます。

まず、6月7日に公開されるのは、本市出身の俳優・平泉成さん主演の「明日を綴る写真館」で、ララシャンスOKAZAKI迎賓館、上地八幡宮、桜城橋、殿橋や伊賀川をはじめ、市内複数箇所が登場します。

続いて、6月21日には、柚月裕子さん原作、若手人気俳優・杉咲花さん主演の「朽ちないサクラ」で、八柱神社、六供配水場や奈良井公園地下貯留地などで撮影が行われました。

是非、見覚えのある風景を探しながら作品をご覧ください、市民の皆様と一緒に「ロケ地・岡崎」をPRしていけたらと思っております。

なお、「明日を綴る写真館」の公開に先駆け、6月6日から、りぶらでパネル展を開催いたしますので、こちらもぜひご覧くださいと思います。

東公園動物園においては、動物たちがいきいきと幸せに暮らせる住みよい環境を目指し、本市初の取り組みとなる「クラウドファンディング」を5月22日からスタートいたしました。

この事業では、「ラマ」を2頭、「ヒツジ」を1頭、世界最大級のうさぎ「フレミッシュジャイアント」1頭を、新たな仲間として迎え入れるとともに、獣舎の改修などを進め、動物たちが群れや家族で暮らす本来の生息環境の中で、その命をつないでいきたいと考えています。

迎え入れた動物たちには、赤ちゃんの誕生を期待するとともに、来園されるかたには、動物の愛らしさや命の大切さを感じていただきたいと思っております。

クラウドファンディングの目標金額は820万円で、事業期間は令和6年7月19日までとしており、市の東公園動物園ホームページからクラウドファンディングのホームページへ行けるようになっております。

日々、多くのかたからご支援をいただいております、5月末の状況といたしましては、215名のかたから294万円の御支援と、併せて温かい応援コメントをいただいております。ご支援いただいた皆さまに、深く感謝を申し上げますとともに、本事業に共感される多くの皆様からのご支援をお願いいたします。

4月1日施行により、障がい者コミュニケーション条例を制定しました。この条例は、障がいをお持ちの方々が持つ、様々な特性を皆が理解することで、社会生活を送る中で「生き辛さ」を感じないように、特性に応じた様々なコミュニケーション手段を利用することの重要性を認め、

コミュニケーション手段を選択する機会が保障されることを目指していくものであります。

7月23日には、障がい者団体の皆さん、そして市職員も参加する条例の普及啓発に向けた座談会を開催し、この条例の意志を受け継いでいくとともに、更に大きく育て上げることによって、本市の将来の障がい者施策の大きな柱となるようしっかり取り組んでまいります。

おかざき世界子ども美術博物館では、6月29日からの企画展「あそべる昆虫ワールド」の開催に併せて、今年2月に、障がい者支援施設「藤花荘」からご寄贈いただいた、施設入所者である安藤昇様と森慎吾様の陶芸作品のお披露目として、特別展「安藤昇と森慎吾のやわらかいかたち ―世界は土でできている―」を開催いたします。

この特別展では、安藤様の見る者を優しく楽しい気持ちにさせる「動物の作品」と、森様の細部までこだわり形態を追求した「車やバイクの作品」、約150点を一挙に紹介いたします。自由で個性的な作品は、子どもたちの創作意欲をかき立て、また、子どもから大人まで大勢の方に見ていただくことで、障がいを持つかたへの理解が深まることを期待しています。

岩津地区において、地元の方々を中心に保存活動をされてきた「岩津城跡」が令和6年3月29日に市の文化財史跡に指定されました。岩津城は、徳川家康公の祖とされる松平家が進出して活動をしていたといわれのある、大変ロマンの感じる城であり、その遺構は大変貴重で価値あるものです。今後とも歴史文化資産として後世に伝えられるよう支援してまいります。

今年度は、家康公の功績や生きかたに想いを寄せたまちづくりを通して、次の世代に希望ある未来を引き継いでいくため、「もっと家康公“ど”まんなんかプロジェクト」に取り組んでおります。

7月13日から美術博物館で開催する「QuizKnockと巡る江戸東京博物館展」では、江戸東京博物館の常設展示室のうちの「江戸ゾーン」からセレクトされた品々を通して、平和な時代のまちづくりや暮らし、経済、文化や娯楽など、江戸の歴史と文化を分かりやすく紹介します。

浮世絵を中心とした多彩な絵画、貨幣や道具など当時の人々の暮らしぶりがよくわかる歴史資料など、豊富な江戸博のコレクションを展示するとともに、常設展で人気の「大名駕籠」や「棒手振り」などの体験模型・再現模型も展示し、実際に体験することで、よりリアルに江戸時代を感じることができます。

また、東大発の知識集団QuizKnockとコラボし、QuizKnockならではの目線で江戸の歴史を深掘り、さらに図録ではQuizKnockオリジナルの解説やクイズを楽しんでいただけます。活気あふれる江戸の世界をどうぞお楽しみください。

9月14日、15日には岡崎オリジナルの新作歌舞伎・「紅葉錦絵葵正夢 岡崎城紅葉狩りの場(はなのにしきえ あおいのまさゆめ おかざきじょうもみじがりのば)」を岡崎市民会館あおいホールにて公演いたします。

家康公が築いた「戦のない平和な世」を、そして「平和」を求める想いを、家康公生誕の地であり、平和発祥の地である岡崎から力強く発信するものでございます。

また、脚本、振付は日本舞踊「宗家藤間流」宗家であり、歌舞伎の振付師で脚本家としても著名な八世 藤間勘十郎氏にお願いし、家康公を主人公とした新作歌舞伎を手掛けていただけることになりました。

出演者は、歌舞伎の興行主体として最大手の松竹株式会社様に調整をお願いし、新作歌舞伎「紅葉錦絵葵正夢(はなのにしきえ あおいのまさゆめ)」の徳川家康役に市川中車さん、同時に上演する「獨道中五十三驛(ひとりたびごじゅうさんつぎ)より 旅噂岡崎猫(たびのうわさおかざきのねこ)」の主役である、「おさん 実は 猫の怪」役に市川青虎さんが決定いたしました。ほかの出演者の皆様も現在調整を進めていただいています。

こちらのチケット販売が、6月29日の午前10時から市民会館などで始まります。

ぜひ、この岡崎オリジナル歌舞伎を多くの方々にご覧いただき、伝統芸能を通じて、家康公や岡崎への関心を深めるとともに、岡崎のもつ歴史の魅力を再認識し、郷土の誇りを持っていただく機運を醸成してまいりたいと考えております。

徳川家康公は、子宝に恵まれ、「子育てにおける17条の教訓」を作るなど、わが子のことを考え、大切に子育てをしたといわれています。

こうした家康公の考えに習い、今年度、新たな取組として「おかざき こども会議」を開催します。こどもたちは将来の担い手であるとともに、大人と同じ今を生きる市民です。

こどもたちの意見をしっかりと聴き、施策に反映していくことで、こどもたちにとっても暮らしやすい社会づくりをするとともに、地域への愛着が育まれることを目指していきます。

次に、本市の花火大会でございますが、江戸時代に火薬の平和利用が促され、発展した三河花火のふるさと岡崎にとって、平和の祭典でございます。

今年の花火大会は8月3日の土曜日を予定しており、6月下旬から有料観覧席の市民先行販売を開始いたします。あわせて、サテライト会場の設置や地上波テレビ放送の生中継など、会場以外でもより多くの皆様に臨場感を持って楽しんでいただけるよう、準備を進めております。

最後に、給水スポットの設置についてでございます。

取り組みのスタートである1か所目の給水スポットとして、多くの皆様にご利用いただけるように、小さなお子さまからお年寄りまで多くの市民が訪れ、家族の憩いの場となっている東公園に、マイボトルに給水できる冷水機を設置いたします。

この取り組みにより、安全・安心な岡崎の水道水を飲んでいただく機会を増やし、岡崎の水道水をPRすることで、『水道水は飲み水として最適である』との認識を一層定着させたいと考えております。また、この給水スポットは、熱中症対策のほか、マイボトルの使用によるプラスチックごみの削減にもつながり、SDGsにも貢献できる取り組みでもあります。

現在、8月上旬から給水スポットを利用できるよう準備を進めております。

暑い時期ではございますが、是非、岡崎の水道水の美味しさを味わっていただきたいと思います。

以上、ご説明を申し上げますとともに、提出をいたしております、諸議案につきまして、よろしくご審議の上、ご議決を賜りますようお願い申し上げます、説明を終えさせていただきます。

ありがとうございました。